

新人理学療法士の大量養成に伴い、卒後教育の重要性が叫ばれながら、新人教育は各施設独自の工夫や裁量で行われているのが現状である。新人教育は卒前教育や臨床実習とは異なり、教育時間を多く取れない環境で試験や合否のない課題を習得する努力を求め、種々の施設形態があるため安易に指導内容を一般化できないことなど、困難な要因も多い。今後の新人教育は、方法論や指導項目のみならず、施設内・ひいては本邦全体で統一された明確な目標を立てることが求められる。

■新人教育の目標（芳野 純論文）

「新人理学療法士とはどのような状態か」、「新人理学療法士の目標とは何か」、養成校における教育とともに、理学療法士の資格取得後の教育（継続教育）の充実が必要な状況であり、教育を行ううえではその目標を明確にする必要がある。本稿では、教育目標の必要性および他国・他医療専門職の到達目標について提示し、そこから、日本における新人理学療法士に必要な能力としての到達目標について提示する。

■病院における新人教育の工夫と課題（米沢昌宏論文）

臨床施設における新人教育の課題は、教育体制の整備や指導方法、教育時間の確保など様々である。理学療法士数が増加し、指導経験の少ない指導者も増え、臨床施設は新人教育という課題に対して試行錯誤している状況である。本稿では当院の理学療法部門における新人教育の工夫と課題を示した。

■地域における新人教育—当事者、家族を中心に（中島鈴美論文）

地域で活動する理学療法士は、システム、制度を理解することも重要であるが、当事者、家族の心理を踏まえ、医療としての療法に対する依存から転換できるよう、理学療法士自身も意識し、転換していくことが重要である。医療という安定した環境から、家族のなかで生活する在宅生活に移行し、いかに主体的に暮らせるかが鍵になると考える。地域での支援においては、これらを具体的に実践し、当事者とともに進めていく視点が必要である。

■新人教育のマネジメントスキルを高める工夫（中島隆興論文）

効果的な新人教育には、「教える側」、「教えられる側」それぞれの立場において、職場内での役割をふまえたマネジメントが求められる。職能団体における新人教育の現状から、職場内・職場外教育を相互に補完する、系統的かつ継続的な指導者・管理者教育が必要と考える。「人と人との相互啓発」を基本とした、自発学習促進と能動的行動により、新人教育をマネジメントしていくことが重要である。

■新人教育の工夫—私はこう考える

1. 「変わってはいけないもの、変わるべきもの」を考えて指導する（諸橋 勇論文）

急激にスタッフが増えた職場が多いなかで、新人教育はどこの職場でも急務である。しかし理学療法のみでは技術教育に偏重する傾向があり、基本的な仕事に対する姿勢や意味づけ、社会人としての品格に関する指導などが不十分であると考え、われわれは時代とともに変わっていくものへの対応と、いつの時代も大切にしなければならないものをしっかり認識して新人教育をしなければならない。

2. 具体的な目標設定と双方向な教育環境（高橋哲也論文）

新人は先輩の背中をみて育つ。指導する側もそれなりの戦略を持ち、毅然とした態度を示す必要がある。私が実践している新人教育のポイントは、「組織の理念と基本方針に合わせた具体的な目標を設定すること」、「相談しやすく双方向な環境を作ること」である。理学療法士が供給過剰となりつつある現在、新人、先輩、双方の成熟が組織の理念と基本方針の達成につながる。

3. 地域リハビリテーションにおける職域拡大と新人教育（松井一人論文）

理学療法士の需要と供給の実情や、社会情勢の変化などによる理学療法士の職域を考えると、今後の新人教育は重要である。地域リハビリテーションに対する需要がいつそう高まるなか、新人教育の

システムを職場単位でもきっちりと構築することは急務である。地域リハビリテーションにおける新人教育に必要な要素は多岐にわたり、多職種連携、臨床経験、スーパーバイザーの設置など、多くの項目に注意を払う必要がある。

4. 訪問リハビリテーションにおける新人教育のポイント（吉良健司論文）

訪問リハビリテーションに必要なスキルは、接遇や対人援助技術といった社会人としてのスキル、疾病やリスク管理といった医療人としてのスキル、そして医学モデルと生活モデルに基づく専門家としてのスキルである。医学モデルは、様々な疾患や障害をもつ人に理学療法を提供し、生活モデルにおいてはその人を疾患や障害で捉えず、個人として捉え、個人と環境の関係性を調整していく。これらのスキルを、段階的に身に付けていくことが新人教育のポイントである。

5. クリニカル・リーズニング能力向上の工夫（新保松雄論文）

臨床実践におけるセラピストの課題はクリニカル・リーズニング能力の向上である。患者が示す様々な現象の分析や問題解決能力は、セラピスト個人の考える能力、自己認識・自覚性、知識・経験など様々で複雑な要因がすべて集約された総合能力である。その能力の向上には新人と指導者との相互関係が重要であるが、実際面では指導内容、指導時間など創意工夫しなければならない課題も多い。